ABOUT
両育わーるどとは

日本国内では、9人に1人が何かしらの障害や難病の当事者です。私たちは、その「1/9」の当事者を含め、社会全体を対象に活動を展開しています。具体的には、「知らないを知る」をテーマに障害や難病についての理解を深める「THINK UNIVERSAL事業」と、「社会参加をもっと身近に」をテーマに難病の当事者の社会参加や就労機会を促進する「THINK POSSIBILITY事業」の2つの取り組みを進めています。
私たちは、「障害や難病を越え、互いに学び合い、誰もが自らの望むように生きられる社会の実現」をビジョンに掲げ、多様な背景のあるメンバーと共に歩みを進めています。

難病者が働く上で抱える課題

1. 障害や難病等を包括的に支援するための仕組みがない
2. 「働くことが難しいのでは」という難病のイメージ
3. 難病者の就労事例が周知されていない

わたしたちが目指す取り組み

理解啓発
難病×働くの認知向上と選択肢の提示

当事者支援 就労事例作り
多様な働き方のモデルを提示

調査 アドボカシー活動
政策提言や自治体単位でのロールモデル作り

9/9 THINK UNIVERSAL
社会参加をもっと身近に

1/9 THINK POSSIBILITY
知らないを知る

SUPPORT
ご寄付のご案内

オンライン決済（マンスリーサポーター）

月々500円から、継続的にご支援をいただけます。
右記QRコードまたはキーワード検索より詳細をご確認ください。

詳細はウェブで確認　両育わーるど　継続寄付　検索
https://readyfor.jp/projects/ryoiku

銀行振込

以下の口座にご寄付いただけます。

ゆうちょ銀行
店名〇一八 普通 口座番号3553143
トクヒ）リョウイクワールド

三菱東京UFJ銀行
渋谷支店135 普通 口座番号0712658
トクヒ）リョウイクワールド

「つながる募金」

SoftBankのスマートフォンをご利用の方は、月額使用料で請求され、毎月の継続的な支援、または1回限りの支援を選択いただけます。SoftBank以外のスマートフォンをお持ちの方は、クレジットカードでのお支払いとなります。

ご協力のお願い

私たちは、障害や難病に関する理解啓発、対話プログラムの提供、難病と就労に関する実態調査や研究を行っております。また、講演や登壇の機会についても、積極的に取り組んでおります。協働可能な企業様や、プログラム提供にご関心のある団体様を募集しております。お気軽にお声かけください。

CONTACT
お問い合わせ

特定非営利活動法人両育わーるど
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-26-16
第5叶ビル5F co-ba shibuya内
メール　info@ryoiku.org
ウェブ　https://ryoiku.org/

両育わーるど　検索

お知らせやイベント等最新情報はウェブをご覧ください

両育わーるど

Ryoiku World

障害や難病を越え、
互いに学び合い、
誰もが自らの
望むように生きられる
社会を目指して

ACTIVITIES
活動紹介

THINK POSSIBILITY

“社会参加をもっと身近に”

THINK POSSIBILITY 事業では、難病者の実態調査に始まり、
就労事例づくりやアドボカシー活動をしています。

主な活動内容

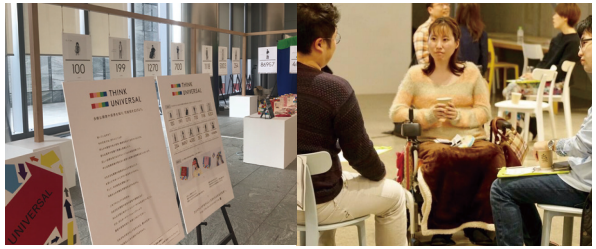
- 難病者、地方自治体、経営者・人事担当者向け実態調査
- 企業・団体・自治体との難病者の就労・社会参加についての研究会
- 地方議員向けのオンライン勉強会の開催
- 難病者の働き方を可視化するオンラインイベント「はたらく難病ラボ」の開催
- 難病者の社会参加白書の作成・配布

はたらく難病ラボ

「難病 × 働く」と「可視化」をキーワードにした共催オンラインイベント。YouTubeで「はたらく難病ラボ」と検索してこれまでのイベントアーカイブをご覧いただけます。

難病者の社会参加を考える研究会

難病者700万人(指定難病・希少疾患・難治性疾患含む)が、制度の狭間で孤立することに問題意識を持った当事者と支援団体、民間企業、医療従事者、研究者等で集まり、当会を設立しました。
現在難病者の社会参加白書パート2を制作中です。



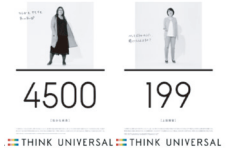
THINK UNIVERSAL

“知らないを知る”

THINK UNIVERSAL事業では、
「知る、体験する、対話する」の3ステップを通して、
障害や難病に関する理解を深め、自分事として考えるための
機会づくりに取り組んでいます。

主な活動内容

ポスター制作・展示



さまざまな障害や疾患のある当事者をモデルにした理解啓発活動

展示実績：各種イベント・大学、公共交通機関など50か所以上、ポスターモデル26名

THINK BOX

障害疑似体験を通してコミュニケーションスキルを学ぶワークショップ

多様性理解を深めるための“THINK BOX”の制作及び体験会や研修の実施。累積提供数：25回提供以上・860名

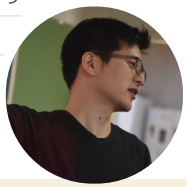
ヒューマンライブラリー

社会的マイノリティの偏見を減らし、相互理解を深める交流機会の提供

『人(当事者)を本に見立て、読者に貸し出す図書館』という意味で、『読者(参加者)』と『本(当事者)』の交流機会の提供
開催3回・累計参加者80名

MESSAGE
代表メッセージ

現在、私たち両育わーるどは、第二の創業期のような時期を迎えています。休止していた事業の再開や新規事業の立ち上げに伴い、気がつけば全国各地から40名を超えるメンバーが集まりました。その多くは、障害や難病のある20代から70代の当事者やそのご家族であり、それぞれが個別の課題や背景があります。
私たちは、「障害や難病を越え、互いに学び合い、誰もが望むように生きられる社会」の実現を目指して活動しています。このビジョンを達成するために、私たちはまず、自分たち自身の中で多様な困難や背景を持ち寄り、その課題を解消するモデルを試行錯誤しながら作り上げています。これが、社会全体における変革の鍵になると信じています。
社会を見渡すと、厚生労働省の第7期障害福祉計画において難病が大きく取り上げられ、2024年度からは合理的配慮の義務化や指定難病の登録者証制度が始まりました。私たちができることは、これらの社会課題に対して、積極的に取り組み続け、その解決策を提示し、社会に発信していくことだと考えます。
困っている当事者が声を上げ続けなければ、社会はその問題に気づかず、対応も進みません。だからこそ、私たちは当事者として、支援団体として、これからも積極的に取り組み、発信し続けていきます。



理事長 重光喬之

PROFILE 重光喬之

NPO 法人両育わーるど、多摩大学大学院医療・介護ソリューション研究所フェロー
民間企業 2 社勤務の後、2012 年に NPO 設立。20 代半ばで脳脊髄液減少症を発症し、入退院を繰り返し、2017 年に脳脊髄液減少症患者向けのエピソード共有サイトを立ち上げる。2018 年に『難病者の社会参加を考える研究会』の立ち上げ、病名を越えた難病者の就業・社会参加に着目し、実態調査やアドボカシー活動を行い、『難病者の社会参加白書』を発行。行政・立法関係者への提言や勉強会を開催しながら、連携企業と就業事例作りを実施。2022 年、京都大学バリアフリーフォーラムにて難病者の就業調査や痛みの可視化等を発表、2024 年『語りの場からの学問創成』(京都大学出版)一部執筆。